ゆうすいのポエム集　1
さくらじまゆうすい

君に会いたい

君に会いたい

君だけは違う　僕みたいな男にも優しくしてくれる

僕は仕事だってできないし　誰も本気で相手にしてくれない

僕はいつも孤独だった　誰にも心を開けなかった

君と出会ってから世界が変わった

僕は少しずつ世界に心を開けるようになってきた

君も誰よりも苦労しているみたいだから

人の痛みが誰よりもわかるんだね

君にかなう相手なんて誰もいない

君の前ではひざまづくしかない

君は僕のことを自分のことのように喜んでくれた

今までそんな人に出会ったことはなかったよ

こんな孤独な僕でも君なら信じられる

君に一目会いたい　君は会ってくれるだろうか

君に会えるのなら　地球の裏側だって飛んでいくよ

やっと見つけられたのかな　ずっと探し求めていた人に

中途半端な気持ちじゃないよ

君が苦しんでいるときには僕が抱きしめてあげるから

君に一目会いたい　そして僕の気持ちを伝えたい

世界中で一番好きな君へ

世界中で一番好きな君へ

君は世界中で一番きれいな人に見える

本当だよ　僕は嘘をつけない人間だから

君のために夢をあきらめないと決めた

もし僕の夢がかなわないとしても

きっと僕は後悔しないだろう

もし僕の夢がかなうとしたら

君に少しでも近づきたい

もし君が僕のことを選ばなかったとしたら

今までいろんな人からふられた時より心は痛むだろう

最近の僕は心が淋しすぎて何も手につかない

頑張れるとしたら　君に近づく努力しかない

世界中で一番君のことが好きだから

人を愛する当たり前のことを君に出会えなければ

一生気づかずにいたのかもしれない

君と出会えて僕は大人になれた気がする

僕はまだ子供みたいなところもあるけど

君が僕のことを好きだと認めてくれるまで

そして僕の夢をかなえるまで　君のために頑張れるよ

何か伝えようとしている

　　何か伝えようとしている

君は何か伝えようとしている

言葉ではなく　何か迷いながら探しながら

僕は君が伝えたいことを心で感じようとする

言葉にならないしぐさ

じっと見つめる目

でも僕は鈍感だからよく意味がわからない

心と心の対話とかそんなことできないし

やっぱり人の心って言葉にしなきゃ伝わらない

少なくとも僕はそう思う

言葉にしなくても伝えられるという考え方

そういう考え方に僕はついていけない

僕もなんとなくわかる気がするけど

言葉にして伝えた方がいいんじゃないの

生きているうちに出会える人の数って限られてるから

もっと気持ちを言葉で伝えようよ

そうすればもっと心が通じ合うようになるから

でも僕って無口なんだよね

どこの仲間にも加われないから

無口な僕って損ばかりしている

でも好きな人には言葉にして気持ちを伝えたい

好きなのに

好きなのに

君に恋している

今は君に会えないけど

君の事ばかり思い出している

かなわぬ恋だと知りつつも

君に心を惹かれた

悲しい恋

好きなのに

好きなのに

なぜ心は満たされないの

君の顔はおぼろげにしか思い出せないのに

君の笑顔で僕の心はいっぱいになる

君とどうすれば出会えるのだろう

もし君が僕の側にいてくれるなら

他には何もいらないくらいだよ

好きなのに

好きなのに

なぜ君に会えないんだろう

好きなのに

好きなのに

なぜ君を抱きしめられないんだろう

またいつか君に会いたい

道化師

道化師

恋が始まったとたんに

終わりが見えている

僕の恋はいつもそうだ

何も起こらないまま終わってしまう

淋しくてたまらないのに

淋しいことも伝えられない

いつも僕なんかだめな男だと思ってしまう

僕みたいな男が好かれると思えない

もてない男のパターン

ワンパターンの繰り返し

何もかもネガティブにしか考えられない

そんなに暗く考えることがいけないことなのか

なぜこんなに運が悪いのかわからない

こういう馬鹿な奴を見て喜ぶ連中もいる

僕は道化としてみんなを喜ばせているのだろう

僕は道化としての生き方しか知らない

もう恋なんかしない方がいいとわかっているのに

恋をしてしまう

恋なんかしたらまた道化としてみんなの笑い者

こんな詩にもならないような詩を書いている

こんな詩しか書けない僕はやっぱり道化師

誰も本気で僕のことなんか相手にしてくれるわけがない

もう恋なんかしたくない

君を悲しませたりしない

君を悲しませたりしない

リビングのソファーの僕の横には君がいて

ソファーの周りでは子供たちがはしゃぎまわっている

リビングには犬か猫が一匹いて

これが僕の将来の日曜日

いつも愛する誰かが僕のそばにいる

そんな当たり前の世界が僕のささやかな夢

そんな夢を話しても君は笑ってばっかり

僕が真面目にそんな話をしているって気づかないのかな

君が時々作ってくれる手料理はいつもおいしい

料理が得意な人が僕の理想的な人なんだよ

バイクの免許を取って、いつか二人でツーリングしよう

バイクが苦手なら車でドライブでもいいよ

君が好きなところへ連れて行ってあげるから

こんな話ばっかりしているとダメかな

駆け引きなんてできない僕だから思うまま伝えるよ

僕はちょっと変わった人間だって気づいているのかな

それでも僕についてきてくれるのなら

僕は君を悲しませたりしないよ

桜島

桜島

鹿児島の中心にそびえたつ桜島

錦江湾の中心にそびえたつ桜島

毎日のように噴火をしては

周囲に火山灰をまき散らしている

おかげで雨も降らないのに傘が必要になることもある

洗濯物も灰で汚れるので外に干せない季節もある

季節によって風向きが変わり灰の降る方向が変わるからだ

しかし鹿児島の人たちは桜島の悪口を言わない

むしろ鹿児島に桜島があることを誇りに思っている

富士山や高千穂の峰のように信仰の対象でもないのに

富士山は美しい女性のような山だが

桜島はごつごつとした男性のような山だ

桜島は錦江湾の対岸から見ると風光明媚である

桜島のない錦江湾の風景なんて考えられない

桜の花はあまり咲かないのに桜島と呼ばれる

鹿児島の人たちにとって桜島は誇り高い山である

あなたを守りたい

あなたを守りたい

あなたを守りたい

遠く離れていても

あなたを守りたい

もしもあなたがつらいときは

あなたを守りたい

あなたがこの世に生きている限り

あなたを守りたい

あなたを苦しめるすべての悲しみから

僕は誰でもいいわけじゃなく

ただあなたのことを好きだから

できればそばにいたい

でもあなたは僕のことを選ばないだろう

それでも僕はあなたを守りたい

あなたを苦しめる

目には見えないものから

あなたを守りたい

あなたをただ思い続けたい

あなたを守りたい

あなたが幸せになるように

あなたを守りたい

そっと目には見えない力で

あなたを守りたい

たとえあなたが僕のことなど忘れていても

たぶんあなたは僕以外の人と結ばれる

その時初めてあなたのことをあきらめるだろう

あなたはその人から守ってもらえばいい

あなたがほかの誰かを選んでも

僕はあなたのことを忘れはしない

いつか告白できる僕になりたい

いつか告白できる僕になりたい

友達のままでいられない

自分の気持ちに気づいてしまったから

このまま友達でいた方がいいと思ったけど

自分の心にうそはつけない

いつか僕の気持ちを君に告白しないといけないね

そうしたら恋人になってくれるだろうか

それとも今まで通りただの友達同士だろうか

君に好きな人がいるかどうかも知らないのに

君が好きな人が僕ならいいのに

今までいろんな唄を作ってきたけれど

肝心のラブソングが苦手で

今は君のことを思い出しながらこの唄を作っている

切なさを通り越して、今は胸が苦しい

こんな苦しさはもう味わうことなどないと思っていた

君がいないことがこんなにも切なく苦しい

君に会いたい

言葉を交わしたい

笑い合いたい

君の何気ないしぐさが増々切なくさせる

もう君をほかの誰かに渡したくない

いつか君に告白できる僕になれるよう

もっと自信をつけるよう頑張るよ

日いづる国

日いづる国で生まれ出会う人々

この国はどこへ向かうのだろう

この国は世界のモデルになる国

そういう国づくりを目指しているようだ

国の柱になるのはやはり人々

国民一人一人が活かされないと国は発展しない

明日を担う子供たちにもわかることだろう

世界が日本を目指すようになる

力ではアメリカや中国に太刀打ちできない

精神的な柱として世界の中心でありたい

それには国民一人一人の自覚が必要だ

日本が世界を変える

日本人が世界を変える

日本人はものより心の豊かさに目覚めていく

心を変えていくのは人と人との出会い

日本にもっと外国から人を呼び

日本からも外国へ飛び立とう

日本はいつか世界が認める偉大な国になる

日いづる国に生まれてありがとう

ゆうすいのポエム集　1

http://p.booklog.jp/book/57815

著者：さくらじまゆうすい
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/dpmpct5160/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/57815

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/57815

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ